

11月11日～12月12日
電池月間

でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内電話 (03) 3434-0261 (代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

平成14年6月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

第30回通常総会、第89回並びに 第90回理事会を開催

社団法人電池工業会は、第30回通常総会及び第89・90回理事会を機械振興会館で開き、提出7議案はすべて可決承認された。これによって、平成14年度事業計画が決定し、電池工業会の委員会活動の改革、国際問題（欧米はもとより中国、韓国との関係の強化）、環境・再資源化問題等昨年に引続き重要課題をより効果的に推進すべく行動計画を立案し、諸事業を行う事となった。

平成14年5月17日、定刻午後3時、正会員22社（総員23名）の出席を得て、第30回通常総会が開催された。電池工業会会長代行 田中 千秋（日本電池株式会社社長）が議長となり、第1号議案から第7号議案までが審議された。各議案と審議内容は次のとおり。

(1) 第1号議案 理事、監事選任の件

理事は(株)SIIマイクロパーツ社長 阿部昌明氏
ソニー(株)CNC Eco.社長 中川 裕氏
松下電池工業(株)社長 石田 徹氏
監事はエナジャイザージャパンINC. 支社長高橋捷彦氏
を新理事、新監事に推薦する旨の説明があり承認された。

(2) 第2号議案 会員入退会の件

平成13年度の正会員入会はBYDバッテリージャパン、NECトーキン栃木(株)、日立ホーム&ライフソリューション(株)、賛助会員入会は三興金属工業(株)、日本板硝子(株)住友金属鉱山(株)、正会員退会は三興金属工業(株)、NECモバイルエネルギー(株)、(株)日立製作所、賛助会員退会は本荘ケミカル(株)、三井化学(株)、シ



ヤープ(株)、大和製缶(株)日本無機(株)の報告があり、全会一致で可決承認された。

(3) 第3号議案 平成13年度事業報告の件

IT関連業界の不振を核とした世界同時不況、同時多発テロと米国を始めとする先行きへの不安感を世界中に増幅させた平成13年度は、電池業界として前年比、金額で84%という未曾有の数字を余儀なくされた1年であった。工業会活動も環境保全、資源有効利用に関する取り組み、小形二次電池再資源化推進センターは、機器メーカーをリサイクル会員として発足させ、当初87社で歩みだした会員は、13年度末には141社の会員数に拡大した。

国際問題では、欧米での環境問題、Liイオン電池の安全に関するガイドラインの策定、中国工業会との連携の促進、EUROBAT総会への参加と、IEC国際会議TC 21/SC 21Aを神奈川県逗子市にて開催。広報活動では電池の正しい使い方、電池のリサイクルに関する諸政策に関しユーザーの理解と協力を得られるよう普及活動の推進等、電池を取巻く諸課題解決に向け活発

な取り組みがなされた旨の報告があり、原案どおり可決承認された。

(4) 第4号議案 平成13年度収支決算報告の件

収支が原案どおり可決承認された。収入の部914,841千円、支出の部653,189千円、次期繰越収支差額261,652千円。

(5) 第5号議案 平成14年度事業計画の件

本年度も非常に厳しい事業環境が予想され、従来に増して、環境、再資源化問題、国際標準化問題、広報活動等を中心に工業会活動を強力に推進する。特に再資源化問題では一次電池、二次電池を問わず、産業構造審議会、廃棄物リサイクル小委員会では、循環型社会システムの高度化との標題の下、今までの3Rをより高度化して行く取り組みがなされており、その動きに電池業界としても、多角的に対応の必要性が望まれている。また小形二次電池再資源化推進センターの2年目の活動は、一層の効率性、実効性を追求していきたい。旨の説明があり原案どおり承認された。

(6) 第6号議案 平成14年度予算の件

予算案675,247千円が原案どおり可決承認された。

(7) 第7号議案 特別会計設置の件

1. 小形二次電池再資源化推進センターを平成14年度より通常の電池工業会経理と区分を明確にするため、特別会計(A)とする。また蓄電池設備認証センターは同じく特別会計(B)とし平成15年度より実施する。
 2. 小形二次電池再資源化推進センターよりの貸付金返済は平成14年度205,000千円以降平成18年まで5年間で返済する。
 3. 繰越収支差額金の使途については平成14年度第4四半期にて実施する。
- 旨の説明があり原案どおり可決承認された。

なお、総会の前に第89回理事会を開催、通常総会に提出する議案を審議した。また総会を途中中断し第90回理事会を開催し、田中千秋会長、井植敏雅副会長を選出した。また総会終了後同会館5階に於いて懇親パーティーを開いた。来賓として経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課 環境リサイクル室・川上室長の出席を得て、ご挨拶をいただいた。



会長 田中 千秋氏



副会長 鈴木 芳朗氏



副会長 井植 敏雅氏

IEC (国際電気標準会議) / TC35 (一次電池) WG標準化会議 開催

5月13日(月)から5月16日(木)の4日間、IEC (国際電気標準会議) TC35 (一次電池) の各WGの国際標準化会議と、SC21A (小形二次電池) との合同WGであるJWG12の国際標準化会議が、機械振興会館で開催された。

TC35は全部で90ある、IECのTC (Technical Committee / 専門委員会) の中で、日本が幹事国を務める、わずか4TCの内の1つであり、日本が積極的にリーダーシップをとっている。

今回の国際標準化WG会議には、総勢で9ヶ国40名のメンバーおよびオブザーバーの方が参加される盛況な会議となった。

1. 今回の国際標準化WG会議の主な審議事項

- JWG12「リチウム電池輸送時の安全性規格」の各国コメントの審議
- WG4「一次電池応用試験」の見直し、「補聴器用空気電池の試験条件」の見直し、「CR15H270の規格化(日本提案)」の審議
- WG9「水溶液系電池の安全性規格」の日本提案の審議
- WG10「IEV/電池用語」の審議、「IEC 60086-4とIEC 60086-5」の整合性審議
- MT13「時計用電池」のメンテナンス

2. 審議の結果

短期間の中で集中的に審議された結果の概要は次のとおりである。

- リチウム電池輸送時の安全性規格に一部除外内容を適用範囲項目に盛り込む(JWG12)
- LR系、R系試験項目の同意と、新たにデジカメ用試験項目を検討する(WG4)
- CR2電池の寸法公差規定(WG4)
- 水溶液系電池の安全性規格の修正文案の作成(WG9)
- IEV/電池用語の内、9項目の修正提案を行う(WG10)
- 「IEC 60086-1」と「IEC 60086-2」の日本の修正提案10項目中9項目の承認(WG10)
- 「時計用電池」の一部寸法規定削除および「Profile gauge」導入の見送り(MT13)



以上が確認され、今後、各々「CD(Committee draft for comment)」「CC(Compilation of Comments on CD)」「CDV(Committee draft for vote)」等のIEC文書が発行されることになった。

また、今回の会議ではMT13にはISO/TC114(ウォッチ用専門委員会)のMr.C.Laesser議長と日本時計協会・技術委員の方々がジョイントされたり、電池工業会・一次電池IEC小委員会の委員の方もオブザーバー参加されるなどし、TC35 Mr.M.Babia議長も日本の積極的な取り組みに感謝された。

14日会議終了後に、「ウェルカム・レセプション」が開催され、木村専務理事からは「業界の発展にとっての規格化・標準化の重要性」のスピーチを、TC35のMr.M.Babia議長からも乾杯の挨拶があり、各国メンバーの懇親や旧交を深める場となった。

次回のWG会議は本年10月に中国北京で開催されるIEC総会に合わせ、10月28日～31日に開催することで決定された。



業界動向

***日本電池** リチウムイオン電池を用いた八輪電気自動車の試乗会を開催した。
(4月1日付 化学工業日報)

***新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)** 2002年度京浜地区に6箇所の水素ステーションを建設、燃料電池車の公道の実証走行を2003年から開始へ。
(4月1日付 日刊工業)

***東邦亜鉛** 亜鉛原料の安定調達を目指し、2002年度の乾電池回収を約4000トンに倍増へ。
(4月2日付 日経産業)

***関西ペイント** 塗布型太陽電池の事業化に向けた研究・試作に取組中。太陽電池事業に参入へ。
(4月4日付 化学工業日報)

***ベトカマテリアルズ (ジャパンエナジーグループ)** 理論限界に近づいているリチウムイオン電池用負極材 (炭素系) に替え、合金系 (錫とシリコンがベース) の次世代負極材の開発に着手、2年内の実用化を目指す。
(4月4日付 化学工業日報)

***大阪ガス** 家庭用燃料電池コジェネレーションシステムの実用化に向け、集合住宅での試用運転を開始。
(4月5日付 日刊工業)

***ホンダ** 350気圧の高圧水素タンクを用いた燃料電池車の公道試験を開始した。水素燃料で初の実用車を2003年中に出す予定。
(4月5日付 日刊工業、日経&日経産業)

***ガートナー・データ・クエスト (米)** 2002年の世界のPDA出荷は1550万台で昨年比18%増になる旨を発表。
(4月5日付 電波)

***ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ** 5月末にも中国に全額出資の子会社を設立する。
(4月8日付 日経産業)

***イーシーリサーチ (日本)** パソコンの国内出荷が7-9月出荷が6四半期ぶりに前年同期比で増加になるとの見通しを発表。
(4月8日付 日経産業)

***日立製作所** 中国での知的財産戦略を加速、特許提案件数を、2003年3月期は年間300件 (1.5倍) に引き上げへ。
(4月9日付 日刊工業)

***特許庁** 中国で日本企業が出願した特許が棚ざらし状態になっていて対中国ビジネスの大問題に浮上中。
(4月11日付 日経産業)

***松下電器産業** 世界で初めて、大容量ラミネート型リチウムイオンバッテリーを用いた電動ハイブリッド自転車の新製品を5月10日から発売する。
(4月10日付 電波、日経産業&日刊工業)

***電子情報技術産業協会 (JEITA)** 2月の携帯電話 (自動車電話、PHS含む) の国内出荷台数は289万9千台で、前年同月比25.7%減少した。前年実績割れは9ヶ月連続。
(4月11日付 日経)

***KDDI** 2003年度にクレジットカードや定期券として使える多目的の携帯電話を商品化へ。
(4月13日付 日経)

***日本IBM** 価格の下落で採算が悪化した等から、今夏までにPDAの販売を打ち切る。
(4月13日付 日経)

***NECトキン** 羽田社長、リチウムイオン電池の世界シェアを2004年度までに14%押し上げ20%とし、世界3位メーカーにしたい等を語る。
(4月12日付 日経産業)

***三洋電機&ホンダ** ハイブリッド車向け電池 (ニッケル水素電池) の共同開発を行い、2-3年の内に搭載車を発売へ。
(4月12日付 日経)

***ホンダ** 従来に比べ約20%発電効率を高めた薄膜太陽電池を開発した。国内外の生産拠点の補助動力源として設置予定中。
(4月12日付 日経、&日刊工業)

***東芝** 二次電池事業をリチウムイオン電池に特化し生産体制は埼玉・深谷工場に集約する。生産は2002年下期に月産800万個を予定。
(4月16日付 電波)

***日本写真機工業会** DSCの米国向け輸出が、2月は昨年同月比52%増と拡大し始めた。
(4月16日付 化学工業日報)

***トヨタ自動車** アイシン精機等と協同で家庭用燃料電池コジェネレーションシステムを開発した。早ければ2005年を目処に販売を予定中。
(4月16日付 日刊工業)

***経済産業省** 日本製品の模倣品対策として官民の新組織「国際知的財産保護フォーラム」が16日に発足した。9月を目処に模倣品対策強化の提言を策定し中国などに調査団を派遣へ。
(4月17日付 日刊工業&日本工業)

***トヨタ自動車** 350気圧の圧縮水素を燃料にした燃料電池ハイブリッド車のプロトタイプを開発し実験走行に入る。実用車は2003年中に投入する計画。
(4月18日付 日刊工業)

***経済産業省** 2月の製造業の工場稼働率指数 (1996年=100) が91.3%と前月比2.7%上昇、3ヶ月連続で改善、底入れ感が出て来た。
(4月18日付 日経)

***シャープ** 価格を現在の半分に抑え、電力料金が家庭の電力料金に近い次世代型太陽電池の実用化に目処がついた旨を発表。
(4月19日付 日経)

***IDC「米ハイテク調査会社」** 今年1-3月期の世界のパソコン出荷台数が前年同期比2.7%減になった旨を発表。本格的な回復軌道乗せにはもう少しばかり時間がかかる見通しになりそう。
(4月19日付 日経)

***ロジテック・インターナショナル (米)** クレジットカードサイズの小型デジタルカメラを開発、来月から発売する。重量は約53.8g、寸法は56x88x13.3mm。
(4月22日付 日経)

***日本時計協会** 日本と中国の時計業界が中国での模倣品の追放に向けた初の専門家会合を5月末に北京で開催する。
(4月22日付 日経)

***東芝** 中国を中心にアジアでの知的財産戦略を加速させる。海外での特許出願件数を2004年3月期は5000件へ。
(4月23日付 日刊工業)

***トヨタ自動車** ハイブリッド車の累計販売台数が3月末までに、国内外で10万台を突破した。2005年には内外で年間30万台の販売を見込んでいる。
(4月23日付 日経産業)

***NEC** カーボンナノチューブを用いた数十ミリワットから数ワットの小型の燃料電池を試作した。ブロードバンド時代となる2005年以降に実用品を出す予定。
(4月24日付 化学工業日報)

***J-フォン** 6月に予定していた第三世代携帯電話サービスの開始を12月に延期する。遅れの原因は、国際規格の最終決定がずれ込み端末開発が間に合わない見通しになった為。
(4月24日付 日経)

***日本ビクター** モバイルミニノートパソコンを6月上旬に発売、PC事業に本格参入をする。
(4月24日付 電波)

***マルチメディア総合研究所** 2001年度国内パソコン出荷の内の店頭販売でソニーが初めて首位になった。
(4月24日付 日刊工業&日経産業)

***加賀コンポーネント** 携帯機器の台頭に対応、充電器への取り組みを強化、要素技術を生かした大きな柱に育成へ。
(4月24日付 電波)

***東京農工大** イオン伝導度を保持したイオン性液体のポリマーフィルムを開発した。イオン伝導度が高まれば電池の高分子電解質に应用が期待されそう。
(4月25日付 日刊工業)

***IT廃棄物** 世界の使用済みIT製品が中国に流入中。流入原因は解体・処理コストが安く密輸が多い事にある。この結果環境破壊が深刻化している。
(4月25日付 日経産業)

***バーゼル・アクション・ネットワーク (米、環境保護団体)** 米国で発生する電子廃棄物の8割がアジアに輸出され、その90%が中国に流れ込んでいる旨の報告書を纏めた。
(4月25日付 日経産業)

***携帯電話** 携帯電話端末メーカー各社は、今年の需要予測を4億台強に下方修正をした。
(4月25日付 日経)

***日本原子力研究所高崎研究所** 固体高分子型燃料電池の心臓部となる高性能フッ素樹脂膜を開発した。従来の物に比べイオン交換容量が3倍以上で電池の小型化が可能に。
(4月26日付 日経産業)

***自民党** 特許、著作権など知的財産権の保護・強化に関する基本法案を次期通常国会に提出する方針を固めた。
(4月27日付 日経)

平成14年 5月度の電池工業会活動概要

部会	5月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議	8日(水)	広報委員会バッテリー賞WG	*チラシ内容の検討
	10日(金)	PL合同委員会	*本年度の3PL委員会合同活動内容とスケジュールの確認
	13日(月)	IEC/TC35/SC21A/JWG12合同国際会議	*リチウム電池安全輸送規格の検討・審議
	13日～16日	IEC/TC35/WG4, WG9, WG10, MT13国際WG会議	*一次電池規格の見直し審議
	17日(金)	理事会総会	*第89回理事会と第30回通常総会を開催
	21日(火)	広報委員会でんちフェスタWG	*本年度の新企画の確認と関係する共同募金会への説明
	22日(水)	広報委員会・一次電池小形二次電池WG	*啓蒙ポスターの内容、手作り乾電池教室の変更内容等の確認
	22日(水)	広報委員会	*でんちフェスタ等主要広報行事の進行状況の確認
	28日～31日	2002NEW環境展出展(JBRCと共催)	*各種電池の中味とリサイクル活動の啓蒙
	30日(木)	環境総合委員会	*一次、二次、小形二次、海外、再資源化各部門報告。14年度委員長選出
二次電池部会	7日(火)	小形鉛分科会	*H14年度改正の取扱い指針内容。IECへの提案規格案
	9～10日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	9日(木)	自動車用電池委員会	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム審議
	10日(金)	用語分科会	*用語に関するIEC規格案(CDV)への対応。電流値表現記号の統一化
	10日、13日	二次電池リサイクル(委)拡大事務局	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	13日(月)	EV鉛分科会	*日本提案のIEC規格修正案に対するコメントについて
	14日(火)	自動車鉛分科会	*IEC会議での宿題事項。安全指針改正案。機種統合(L化)の状況
	15～16日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	15日(水)	電気車鉛分科会	*H13年度改正SBA技術指針の校正。H14年度改正の技術指針内容
	16日(木)	据置鉛分科会	*H14年度改正の技術指針内容。IEC規格原案(CD)のコメント。共用部品
	16日(木)	二次PL委員会	*H13年度下期のバッテリー破損事故集計と解析
	16日(木)	(自)需要予測小委員会	*H14～H16の自動車用電池需要の予測シミュレーション
	21～22日	二次電池リサイクル(委)拡大事務局	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	21日(火)	(自)市販小委員会	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキームについて
	21日(火)	HEV用電池分科会	*電動車両協会委員会報告。H14年度活動計画。HEV用電池規格案の進捗
	23～24日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	24日(金)	(自)技術サービス小委員会	*関連団体依頼の改正テキストの内容。HP更新案の最終チェック
	27日(月)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	28～29日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	28日(火)	産業用電池小委員会	*産業用電池新リサイクルスキームについて
小形二次電池部会	28日(火)	自動車用電池委員会	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム審議
	28日(火)	二次電池技術委員会	*分科会活動報告。H14年度活動計画の承認。IEC進捗状況報告
	30日(木)	(自)需要予測小委員会	*H14～H16の自動車用電池需要の予測シミュレーション
	8日(水)	リチウム二次分科会	*14年度審議日程の確認、IEC規格回答原案の審議
	14日(火)	アルカリ分科会	*ニカド電池、ニッケル水素電池の回収率算定の検討
	17日(金)	ニカド・ニッケル水素分科会	*IEC規格回答原案の審議(統合安全規格、組電池ガイド、機械試験等)
	22日(水)	再資源化委員会	*「回収率目標の算定」の取組み体制、WGの発足他
	24日(金)	小形二次技術委員会	*JIS/IEC規格審議状況の確認、IECワシントン会議報告、H14年活動計画報告
一次電池部会	24日(金)	業務委員会	*平成14年4月度の出荷実績の検討、機種別出荷調査の件
	28日(火)	臨時アルカリ分科会	*回収ニカド電池の調査(出荷から廃棄までの期間の調査)
	14日(火)	JIS小委員会	*JIS体系について、JIS C 8501マンガンド電池の審議スケジュール確認
	14日(火)	IEC小委員会	*同日開催のIEC/TC35/WG4会議にオブザーバー参加
	24日(金)	PL委員会	*年間活動計画と分担会社の決定と事故情報の交換
	9日(木)	JEMA・環境部講演会(器具、PL委員参加)	*JEMAの環境活動の確認と意見交換

2002NEW環境展に出展

5月28日から5月31日の間、東京ビッグサイト(有明)で開催された環境展に電池工業会と小形二次電池再資源化推進センターが共同で出展し、小形二次電池の回収リサイクルの協力要請を主体にPR活動を行った。来場者は自治体、環境事業関係者に加え今回は市民団体や企業の環境担当者等の来場も多く、循環型社会への各界の取組みが本格化して来たことを十分に感じられた。なお、この環境展は9月4日～7日に大阪でも開催されるので、出展しPR活動を展開する。



●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

UPS(無停電電源装置)遠隔監視ソフトウェア 「パワーバイザNAVI」を新発売

ジーエス・イーイー株式会社(社長 辻村 耕治/日本電池株式会社100%出資子会社)は、UPS統合管理ソフトウェア「パワーバイザNAVI(ナビ)」を開発し、6月1日より発売を開始いたします。

今回発売しました「パワーバイザNAVI」はネットワーク接続されているGSEE製UPSを対象としたUPS専用の統合管理ソフトウェアです。

動作状況・ステータス状況・イベントログなどを遠隔地から集中管理するとともに、UPSのリモート操作の実行が可能です。また、管理対象UPSの各計測データとログデータを週間単位、月間単位でレポートとして作成することができます。

[主な機能]

1. モニタリング機能

管理対象UPSのモニタリングを行い、UPS運転状態の情報や入出力電圧値等の計測情報、またイベント情報を表示管理する。

2. 履歴管理機能

上記のモニタリング機能で収集したデータを履歴管理する事ができる。

3. リモート操作機能

遠隔地にあるUPSをリモート操作できる。

4. レポート表示機能

管理対象UPSの計測データを週間/月間単位でUPSごとと全UPSごと、全UPS分のレポートを表示する。

5. 一括設定機能

管理対象UPS及びUPSの属性を個別または、一括で登録することができる。

[用途]

弊社UPSを使用している環境で、集中管理、遠隔操作が必要なシステム全般

[活用例]

- 多数のUPSが設置されており、各UPSの動作状況を一元管理。
- 複数のUPSの停電発生回数や入力変動を履歴管理。
- 遠隔地にUPSがあり、リモート操作で管理。
- 停電発生や障害発生を遠隔地でモニタリング。
- 複数のUPSのバッテリー寿命やメンテナンス状況を集中管理。

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

小型高性能UPS(無停電電源装置) 「BIROS-mini PEGASUS」シリーズ さらに軽く、小さく、性能アップして新発売

ジーエス・イーイー株式会社(社長 辻村耕治/日本電池株式会社100%出資子会社)は、小型UPS「BIROS-mini(バイロスミニ)」シリーズに新たに1kVAタイプのオンライン(常時インバータ給電)方式UPS「BIROS-mini PEGASUS(バイロスミニペガサス)」シリーズを追加、6月1日から発売いたします。

今回発売の「BIROS-mini PEGASUS」シリーズは主に通信機能、内蔵バッテリーのセルフチェック機能、リモートシャットダウン機能などの高機能化を強化しています。常にクリアな正弦波を供給することが可能で、電圧降下や電圧変動などによる瞬時停電時でも電圧精度が極めて高く、安定した電力を常に供給し、サージやノイズスパイクなどの電源トラブルをシャットアウトします。

[特長]

1. メンテナンスと拡張性に優れたセパレート構造

インバータ部分とバッテリー部分の完全分離構造を採用。これにより、停電時の保証時間の拡張やバッテリー交換が容易に行える。

2. 拡張バッテリー(別売り)でバックアップ時間の拡張が可能

標準モデルのバッテリーはバックアップ時間が10分だが、最大110分までのバックアップが可能な拡張用バッテリーを別売りでご用意。

3. 高信頼オンライン方式UPSシステム

常時インバータ給電方式なので常に安定した高品質な電力を供給する。

4. コンパクトサイズの高性能UPS

体積比13%減の小型化を実現(当社従来品比)。

5. 長寿命バッテリー、長寿命ファンを搭載

6. バッテリーライフアラーム機能

7. 外部インターフェース(RS232C/警報接点端子)を標準装備

8. パワーバイザとの併用によるネットワークパワーマネジメントの提供

[用途]

- ・ ミッションクリティカルなサーバ、スーパーサーバ
- ・ UPS対応機能を持ったコンピュータ
- ・ NMS(ネットワーク・マネジメント・システム)で管理しているシステムの電源
- ・ 監視・電源管理が必要なシステム
- ・ ネットワーク上で監視の必要なコンピュータ、ネットワーク機器など
- ・ 情報通信システム全般
- ・ 半導体製造装置など
- ・ インテリジェント・ハブ、ATM交換機など



3月度電池および器具販売実績（機械統計）

（平成14年3月）

単位：数量＝千個、金額＝百万円（本年よりマンガン乾電池の単二がその他に含まれました）

	単 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	525,462	60,918	89%	89%	1,385,465	164,080	89%	88%
全電池合計	524,767	59,409	89%	89%	1,383,234	159,772	89%	88%
一次電池計	379,882	13,819	87%	87%	988,318	34,913	88%	88%
マンガン乾電池計	97,489	1,948	89%	84%	261,763	5,199	89%	86%
単一	10,172	510	82%	79%	28,672	1,449	86%	84%
単三	56,323	855	94%	85%	144,847	2,123	94%	88%
その他	30,994	583	84%	86%	88,244	1,627	83%	86%
アルカリ乾電池計	111,802	5,939	79%	76%	276,321	14,793	84%	82%
単三	74,494	3,423	80%	74%	175,104	8,033	81%	75%
単四	21,803	1,098	71%	67%	58,460	2,961	88%	83%
その他	15,505	1,418	85%	89%	42,757	3,799	97%	98%
酸化銀電池	73,785	846	79%	76%	211,479	2,429	88%	85%
リチウム電池	87,780	4,585	97%	105%	220,479	11,613	86%	97%
その他の乾電池	9,026	501	212%	249%	18,276	879	149%	167%
二次電池計	144,885	45,590	94%	89%	394,916	124,859	93%	88%
鉛電池計	3,852	14,345	89%	93%	10,516	37,685	88%	90%
自動車用	2,066	6,565	92%	93%	5,799	19,119	93%	88%
二輪用	469	923	82%	92%	1,225	2,386	88%	99%
小形シール	987	1,019	82%	84%	2,687	2,782	77%	79%
その他	330	5,838	98%	96%	805	13,398	96%	93%
アルカリ電池計	98,290	11,412	88%	84%	268,131	32,353	88%	88%
完全密閉式	42,862	4,671	88%	89%	115,693	13,025	85%	88%
ニッケル水素	55,396	5,914	88%	77%	152,368	17,703	90%	86%
その他のアルカリ電池	32	827	123%	124%	70	1,625	125%	119%
リチウムイオン電池	42,743	19,833	113%	90%	116,269	54,821	108%	87%
器具計	695	1,509	90%	101%	2,231	4,308	90%	97%
携帯電灯	343	460	91%	113%	1,173	1,234	91%	87%
電池器具	352	1,049	88%	96%	1,058	3,074	89%	102%

3月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（平成14年3月）

単位：数量＝千個、金額＝百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	296,624	30,297	96%	89%	767,170	81,603	96%	89%
一次電池計	165,255	3,677	89%	97%	427,665	9,455	89%	97%
マンガン	56,269	454	118%	106%	144,728	1,167	118%	106%
アルカリ	16,850	336	59%	73%	44,854	846	59%	73%
酸化銀	33,631	434	69%	73%	92,911	1,195	69%	73%
リチウム	55,918	2,368	97%	106%	137,491	6,011	97%	106%
空気亜鉛	2,275	44	122%	126%	6,693	132	122%	126%
その他の一次	312	41	43%	143%	987	103	43%	143%
二次電池計	131,369	26,619	106%	88%	339,505	72,148	106%	88%
鉛蓄電池	429	733	55%	57%	1,211	2,145	55%	57%
ニカド	37,853	3,515	99%	100%	95,462	9,206	99%	100%
ニッケル鉄	48	7	>>>	609%	51	11	>>>	609%
ニッケル水素	41,558	3,865	85%	64%	114,394	10,894	85%	64%
リチウムイオン	38,838	16,185	135%	94%	94,940	43,299	135%	94%
その他の二次	12,643	2,315	187%	115%	33,447	6,591	187%	115%
全電池合計（輸 入）	38,351	3,855	86%	89%	116,730	11,448	86%	89%
一次電池計	35,148	1,372	90%	121%	107,630	3,547	90%	121%
マンガン	8,452	133	66%	77%	28,978	428	66%	77%
アルカリ	23,847	530	98%	116%	71,441	1,675	98%	116%
酸化銀	467	9	182%	96%	1,249	26	182%	96%
リチウム	1,235	139	148%	145%	2,745	334	148%	145%
空気亜鉛	145	9	53%	72%	1,143	46	53%	72%
その他の一次	1,003	551	231%	144%	2,074	1,038	231%	144%
二次電池計	3,203	2,483	59%	77%	9,099	7,902	59%	77%
鉛蓄電池	461	1,221	88%	90%	1,408	4,021	88%	90%
ニカド	1,694	520	140%	125%	3,930	1,295	140%	125%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	3	5	0%	0%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	1,048	742	28%	51%	3,758	2,581	28%	51%